クリイロコミミガイ　*Laemodonta siamensis* (Morelet)

【選定理由】

本種は、伊勢湾から南西諸島に分布するが、九州以北では生息地は少なく、湾奥の河口域に良好な状態に保全されたヨシ原湿地に生息する。本種の分布の東限かつ北限は伊勢湾であるが、愛知県内では生息が確認されたことがなかった。2016 年 4 月 7 日、初めて愛知県側の伊勢湾沿岸で本種の生息地が発見された（木村・他, 2019）ので、詳細な生息状況を報告する。本種の生息環境である湾奥の河口域に良好な状態に保全されたヨシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てによって著しく減少しており、本種の生息基盤は脆弱である。現在県下に 1 箇所の生息場所とかつその著しく小さい生息面積を鑑み、きわめて絶滅の危険性が高い種と評価された。

名古屋市庄内川河口, 2016 年 4 月 7 日, 木村昭一採集

【形　態】

本種は殻長約 7 mm の小型のオカミミガイ科貝類である。殻は卵形、殻表は強い螺肋で覆われ、殻口外唇に 1 個の歯状突起、内唇側に 2 個の歯状突起、殻軸に 1 個の歯状突起が発達する。クリイロコミミガイは殻頂が欠損することが多く（本土産個体に顕著）、殻表に毛状突起が生えないこと、殻口前縁が円く、前端が尖らないことなどの特徴から、近似種の *Laemodonta exaratoides* Kawabe ウスコミミガイとは明確に区別される。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市庄内川河口の塩性湿地（伊勢湾沿岸）の 1 箇所で、その面積も著しく小さい。

【世界および国内の分布】

種としては、東南アジアに広く分布し、本州（愛知県；伊勢湾）から三重県側伊勢湾、五ヶ所湾、瀬戸内海、吉野川河口、博多湾、伊万里湾、九州西岸、有明海、八代海、八重山諸島に分布するが、前述の通り、南西諸島と九州以北では生息環境、生息状況、殻の形態に違いがある（福田・木村, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

湾奥の河口域に良好な状態に保全されたヨシ原湿地に生息し、オカミミガイ科としてはやや低い地盤高に生息し、庄内川河口域の生息地では最高が 2.38 m、最低が 2.09 m であった。泥分の多い砂泥底に半ば埋もれた直径約 30 cm の砂岩の裏面に、泥と共に 2 個体が寄り添って付着していた。同砂岩裏面には直径約 3 cm の螺旋状に巻いた泥紐状卵塊が生み付けられていた（2016 年 4 月 7 日）。本種の卵塊の形状は、紐状ではなく、ドーナツ状に幅広く重ねるウスコミミガイ（木村, 2012；木村・木村, 2013）よりも泥紐状の卵塊を間隔をおいて螺旋状に巻くシイノミミミガイ（佐藤・木村, 2011；木村・木村, 2013）に近似していた。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項を参照。

【保全上の留意点】

本種の生息環境である湾奥の河口域に良好な状態に保全されたヨシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てによって著しく減少しており、このようなヨシ原から陸上植生まで保全された塩性湿地（下流に堰が出来ると消失する）のこれ以上の破壊、埋め立てを行わないことが保全の第 1 歩である。

【特記事項】

愛知県における生息地は、2016 年に初めて 1 箇所だけで確認された。この生息地は、本種の現在の分布域の北限かつ東限である。なお、本種は三河湾には分布しない。

【引用文献】

福田　宏・木村昭一, 2012. クリイロコミミガイ, p. 97.in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一, 2012. ウスコミミガイ, p. 96. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一・木村妙子, 2013. オカミミガイ科. in：鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森　敬介・多留聖典（著）干潟ベントスフィールド図鑑. pp. 40–41, 153–156. 日本国際湿地保全連合, 東京.
木村昭一・木村妙子・村山　椋, 2019. 愛知県（伊勢湾）で初めて生息が確認されたクリイロコミミガイ. かきつばた, (44): 40–43.
佐藤達也・木村昭一, 2011. 三重県鳥羽市に残されていたシイノミミミガイの繁殖地. かきつばた, (36): 49–52.

【関連文献】

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾および伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44–56.

（木村昭一）